

## 委員会視察記録

委員会名	総務委員会
期間	令和7年7月22日～23日
参加者	委員長 飯田 末夫 副委員長 岩田 徹也 副委員長 川崎 和子 委員 野田 治久 委員 木内 満 委員 佐地 茂人 委員 田口 章 委員 山本 彰彦 委員 遠藤 行洋
視察先	1 静岡理工科大学静岡駅前キャンパス（静岡市葵区） 2 焼津 PORTERS（焼津市） 3 静岡大学浜松キャンパス（浜松市中央区） 4 GREENITY IWATA（磐田市） 5 浜松いわた信用金庫（浜松市中央区）

## 視察の概要

7月22日（火）

### ■ 静岡理工科大学静岡駅前キャンパス

<概要>

静岡理工科大学は、2024年4月に静岡駅前キャンパスを開設し、静岡デザイン専門学校を移転、併せて地域協働センターを設置した。

VR（仮想現実）やAR（拡張現実）など仮想空間ビジネスが急成長する中、昨年度静岡県とXR（クロスリアリティ）分野における人材育成と地域活性化に向けた協定を締結した。静岡県XR（クロスリアリティ）寄附講座を実施し、仮想空間分野のデジタルクリエイター育成と産学官コミュニティ形成・交流促進に取り組んでいる。

学生と企業の相互理解を高め、学生の県内定着と県内企業の新たな挑戦を後押しするコミュニティ「CITY」を立ち上げ、様々なテーマを設定した交流座談会を開催している。先端技術の紹介等を行い、毎回多くの参加者を得ている。

静岡県で取り組んでいる3次元点群データ等を活用した新しい教育プログラムの開発や学校横断型の学習機会の創出等を通じて関連産業等で活躍できる人材を育成している。

<主な質疑応答>

Q 静岡駅前キャンパス設置による学生の応募状況はどうか。

A 情報学部の研究室の一部を静岡駅前キャンパスに設置することを告知した後となった今年度の情報学部の受験者数は多い状況にあった。また、日吉町から移転したデザイン専門学校については、移転に伴い美容科、ヘア



メイク科、CGデザイン科を新設した。新設した学科はいずれも注目度が高く、定員を超える学生の応募があった。その他の学科も応募が多い状況となっている。

## ■ 焼津 PORTERS

### <概要>

焼津 PORTERS は、コロナ禍において、リモートワークやワーケーションが全国的に広がり、地方での生活への関心が高まっていたことを受け、IT企業やフリーランス等、域外の人材を呼び込む拠点として、漁具倉庫をリノベーションして開設された。ワーケーション等の新たな需要に対応したコワーキングスペースや宿泊施設があり、テレワーク交付金やデジタル田園都市国家構想交付金を活用して整備している。



コワーキングスペース、宿泊、テナント、フードコートの利用者がつながるコミュニティスペースがあり、地域の若者も巻き込み、にぎわいづくりをしている。

県焼津漁港管理事務所では、焼津 PORTERS のある焼津内港において、焼津市と協力し、にぎわいづくりに資する防潮堤整備を予定している。

### <主な質疑応答>

Q テナント等に対してビジネスのサポートはあるか。

A ビジネスマッチングは実施していないが、焼津 PORTERS を会場とした交流会を開催し、地域を含めた異業種交流の場づくりを実施している。たき火を囲んだ交流イベントを毎週金曜日に実施している。

7月23日(水)

## ■ 静岡大学浜松キャンパス

### <概要>

静岡大学は、7学部1学環、5研究科1研究院、2研究所からなり、学部学生は、静岡県を含む東海地域出身者が約7割を占めている。

ネーミングライツ事業は、自己収入の拡大を図るため、令和3年度から導入した。

企業等が大学の施設等に愛称を設定することで、施設等の知名度の向上を図るとともに、大学及び地域の活性化に貢献し、企業等との連携の機会を拡大している。

現在、11施設で企業とネーミングライツ契約を締結している。

リクルートのため、浜松キャンパス（特に工学部）の学生への認知度向上を目的とした企業からの申込みや問合せが多く、契約先は製造業の企業が多い。



<主な質疑応答>

Q 契約期間満了となっている企業があるが、どういう評価がされたと考えているか。

A 契約期間を満了した企業は大学内の複数施設でネーミングライツ契約をしていたが、独自に学生の認知度を調査し、認知度の低い施設の契約を満了したものである。

■ GREENITY IWATA

<概要>

建物の老朽化等により全館を建て直し、2024年11月にGREENITY IWATAとして開業した。

ホテル内では地産地消食材や地元の陶芸家の作品を使い、遠州を感じられるものを提供するとともに、日常から離れた癒やしの空間づくりに取り組んでいる。

地域とのつながりを大切にし、マルシェの開催や地元からの職員採用、地元企業の利用を促進している。県内からの宿泊者が25%を占めているが、他県からの利用も多く全年代で利用されている状況である。



■ 浜松いわた信用金庫

<概要>

本店営業部は、令和4年に低層棟、令和5年に高層棟が完成した。日本一意思決定が早い金融機関を目指し、部門長・役員をオフィスの中心に集め、職員はグループごとのフリーアドレスとしている。日の当たる南側を設備等のバックヤードとしており、北側に執務室を配置し空調負荷を低減するとともに、外装をテラコッタルーバーで囲むことで浜松城を望む眺望を確保している。また、床材の一部を除き、内装はSCF認定を受けた天竜ヒノキを使用している。

